

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：データオリエンティッド行動分析の可能性	
日付： 6月 14日（日）曜日，セッション時間：10：10～11：40	
オーガナイザー・司会者名（所属）：山本俊行（名古屋大学）	
討議内容	<p>セッション全体：</p> <p>土木計画のための行動科学 WS がオーガナイズするセッションの一つとして実施された。全体質疑の時間を設ける余裕はなかったが，各発表を通じて，交通量観測データや公共交通 IC カードデータ等の他の目的のために大量に蓄積されている交通データの有効活用，ウェブを用いて効率的に観測された長期的な行動データ，発話プロトコル法による，より詳細な意思決定過程に関するデータ，複数の既存大規模調査データの統合，等による行動分析の適用範囲の広がりが見された。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(244)日下部貴彦（名古屋大学）</p> <p>可視化だけでなく，個人別の分析が可能ではないかという質問があり，まさに分析中とのことで，若干の分析結果例が示された。また，時空間軸を伸縮する機能を追加することで，新たな発見があり得るのではとのコメントがあった。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(245)長谷川裕修（秋田工業高等専門学校）</p> <p>渋滞長を取り込んで更なる分析が可能ではないかとのコメントがあった。また，クラスタリング結果から道路の利用に関する運転者行動分析につなげる可能性についてもコメントがあった。いずれも，発表者から今後に取り組んでいきたいとの返答が得られた。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(246)佐々木邦明（山梨大学）</p> <p>事後分布が多峰性を示した結果について議論があった。潜在セグメントによって表現される異質性と事後分布の多峰性によって表現される異質性について，今後の更なる研究が必要であるとの認識が示された。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(247)武智環（愛媛大学）</p> <p>データクリーニングにより削除されるデータが多く損失が大きいため，欠損値を含むデータを解析する手法を検討できないかとのコメントがあった。また，調査日に年末年始が含まれている理由について質問があり，特に考慮していないとの回答があった。</p>
	<p>（発表番号） 発表者名（所属）：(248)山本貴之（京都大学）</p> <p>実験環境の非現実性が与える影響について質問があり，実験環境が非現実的に関わらず，被験者が現実での経験に引きずられているとの説明があった。また，被験者の言語能力の影響についても質問があり，意味によりコーディングしたデータを用いることで影響を減少させているとの説明があった。</p>

(発表番号) 発表者名 (所属) : (249)山本俊行 (名古屋大学)

データを統合する際に、両データが同一の母集団からの抽出であるかを注意する必要について質問があり、全国 PT データは全国からのランダム抽出ではないが、今回は考慮していないとの回答があった。

※発表件数に応じて適宜追加してください。